

Press Release

◆ 内容についてのお問い合わせ  
 独立行政法人 国際協力機構(JICA)  
 横浜国際センター 総務課 中小企業支援事業担当  
 TEL:045-663-3252(直通) FAX:045-663-3265

2014年9月18日

報道関係各位

中小企業の海外展開を JICA が支援！  
**デング熱の流行を防ぐシステムの構築へ！**

＜タイにおけるデング熱の簡易検査技術の普及に向けて  
 JICA と横浜市内企業、(株) バイオメディカル研究所が連携＞

—日本の技術、世界を変える—

我が国でもおよそ 70 年振りにデング熱の感染が確認され、この数週間、デング熱が大きな話題になっており、罹患者もかなりの人数に上っています。一方、タイやフィリピンなど熱帯・亜熱帯の開発途上国では、毎年、デング熱の流行が問題になっており、デング熱による死亡者の例も多く報告されています。



国際協力機構 (JICA) は、9月2日付で、株式会社バイオメディカル研究所(代表取締役 宮崎功)の提案する「タイ国デングウィルス感染症の発生動向を正確に把握するシステム構築のための案件化調査」を仮採択しました。同社はタイ国保健省、マヒドン大学医学部等の協力を得て、デング熱発生の監視体制の構築のための準備調査、デング熱治療の実態調査等を実施する予定です。

タイでは毎年、約 6 万人以上のデング熱の感染例が報告されていますが、2013 年には大流行となり患者約 15 万人、死亡者 136 人を記録しました(出典:タイ国保健省)。タイではこの様なデング熱の発生状況に鑑み、デング熱の防疫体制の早期の確立が大きな課題となっています。



【RapiDeng<sup>®</sup>-Ag】

検体(血清、全血など)及び展開液を小試験管に滴下し、本製品を挿入。10-20分待つと、出現するラインの本数にて陽性・陰性を判定できる。

本調査では、バイオメディカル研究所が開発したデング熱の感染の有無を簡単かつ迅速、正確、安価に判定する

ことができる検査キット(製品名: RapiDeng<sup>®</sup>-Ag (ラピデング))を使い、デング熱患者からの検体を使った検査を実施するとともに、デング熱の治療方法の実態調査、デング熱の発生動向管理システム(サーベイランスシステム)

の計画策定、現行の検査方法等に関する医療従事者への聞き取り調査を行います。それらの調査結果に基づき、デング熱のサーベイランスシステム構築へ協力し、デング熱の流行阻止のための的確な対応が迅速に行われるようになることを目指しています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための情報収集、事業計画立案等を支援することを目的としたものです。本事業は 2012 年度から実施されており、2014 年度は本年 5 月に公示を行いました。今回、176 件の応募のうち 26 件が仮採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

以上